

## 基本理念

三協フロンテアは  
社会から信頼され、お客様から愛され、  
社員にとって誇りをもてる企業であるために、  
以下の目的と基本的価値観を共有し、守り続けます。

## 目的（存在理由）

わたしたちは  
社会に役立ち、人々の心や暮らしを豊かにし、  
よって社会に貢献することを目的とします。

## 基本的価値観

### 1 開拓の精神

わたしたちは、失敗を恐れず、情熱を持って、  
未開の地（新しい分野）に挑戦することを誇りとします。

### 2 不断の努力

わたしたちは、弛みない努力によって、  
困難に打ち勝ち、目的の実現に至ることを喜びとします。

### 3 誠実な意志

わたしたちは、わたしたちを支える人々\*に対し、  
揺らぐことのない誠実な意志によって行動します。

\*お客様、サプライヤー、株主・投資家、  
従業員とその家族などステークホルダーの皆様

## 株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに第39期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）  
中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、お客様に質の高い快適な空間を提供することを  
目的とするとともに、ユニットハウスを通じて建築物の再  
利用をすすめ、資源循環型社会の形成に貢献することを  
社会における当社の存在理由としています。

ユニットハウスは、必要なときに必要な空間を必要な  
だけ利用し、その場所で不要となったら別の場所に移設し、  
再利用を行うという、今までの建築概念にない発想を可  
能としています。これからの社会システムに必要とされる  
ものを自ら作り出し、そのオリジナル製品によって社会に

貢献するという創業当時から受け継がれてきたフロンテアスピリッツ(開拓の精神)を原点に、今後もさらなる成長・拡大を目指してまいります。

### 当中間期(平成19年4月1日～平成19年9月30日)の業績について

当中間期の建設市場は、建築物の安全性の確保を図ることを目的として平成19年6月20日に施行された改正建築基準法により建築確認の審査基準が厳格化されました。この影響により、7月以降建築着工が大幅に減少しました。このような状況のもと、当社の主要顧客先である大手ゼネコンにおいても工事着工にブレーキがかかり、これまで好調に推移していた仮設ユニットハウスのレンタル出荷棟数は前年同期比並みの推移となりました。

一方、新たな需要先の開拓として注力しているユニットハウスの本建築物の販売につきましては、営業力・製品力の強化を図ることにより、大型物件の受注獲得につながってまいりました。

また、当中間期には平成19年3月25日に発生した能登半島地震、平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震により被災された方々向けの応急仮設住宅を提供しております。

これらの結果、当中間期の売上高は、8,990百万円(前年同期比8.6%増)となりました。

利益面におきましては、前中間期にユニットハウスの展示販売を行うスペースナビの不採算店舗を閉鎖し収益性が改善されたことや売上高の増加にともない、営業利益は794百万円(同70.0%増)、経常利益は754百万円(同87.8%増)と、いずれも前年中間期を上回ることができました。中間純利益につきましては、役員退職慰労金の過去勤務費用120百万円、遊休資産(土地)の減損損失48百万円を特別損失に計上したことにより226百万円(同40.8%増)となりました。

今後につきましては、建設市場は引き続き改正建築基準法の影響を受けることが予想されますが、主力事業である仮設ユニットハウスのレンタルにおいてトップの地位を盤石なものにするとともに、新たな需要先の開拓として取り組んでいる事務所や店舗などの本建築物の受注に、より一層注力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役社長

長喜貴嗣